木刀による剣道基本技稽古法の試合判定基準

厚木剣道連盟

|  |  |
| --- | --- |
|  | 着眼点 |
| １ | 正しい礼法と技の順序は出来ているか |
| ２ | 正しい中段の構えを身につける |
| ３ | 目付は相手から離さない |
| ４ | 蹲踞と技の終了した時点の間合いは横手あたりを交差させる |
| ５ | 打突は一足一刀の間合 から、一拍子で充実した気勢をもって行う |
| 打突部位を刃筋正しく物打ちで行う |
| ６ | 足さばきはすり足で行う |
| ７ | 掛け声は打突部位の呼称を明確に発声する |
| ８ | 残心は打突後油断することなく相手に正対し、中段の構えになって示す |
| （ただし基本６は動きの中の残心） |

※元立ちと掛り手の入れ替わりについては、判定の対象にしない。

＊試合場への入退場の際の礼は不要。判定にも含まない。

日本剣道形の試合判定基準

厚木剣道連盟

|  |  |
| --- | --- |
|  | 着眼点 |
| １ | 終始充実した気勢・気迫をもって行う |
| ２ | 仕太刀は（原則）打太刀に従って始動する |
| ３ | 太刀においては、打太刀は「機」を見て打つ。小太刀においては「入り身にならんとするところを打つ |
| ４ | 打太刀は打突部位を打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を打突する |
| ５ | 目付は相手から離さない |
| ６ | 足さばきは「すり足」で行い、一方の足を移動させたときは、（原則）他方の足を伴って移動させる |
| ７ | 六つの構えを正しく身につける |
| ８ | 仕太刀は十分な気位いで残心を示す |
| ９ | 小太刀の　半身の構え・剣先の高さはよいか |
| 10 | 小太刀の左右の鎬で受け流しているか |

＊試合場への入退場の際の礼は不要。判定にも含まない。